



## 保護者講座の報告



## 幼稚園で身につけておきたいこと（1月16日）

「コミュニケーション手段の話」というテーマで、教育相談担当の佐伯先生にお話をしてもらいました。現在、全国のほとんどのろう学校で手話が用いられていますが、20年前までは手話を使わない学校も多く、当時は、きこえない子どもにとってどのような手段を用いるかが議論されていました。そうした歴史的な流れを踏まえつつ、聴覚、読話や発音、文字（筆談、空書、パソコン要約等）、指文字、手話等について、それぞれの長所と短所を参加された保護者の方と一緒に考えていきました。現在では、コミュニケーションの保障とともに日本語の習得がどのろう学校でも課題として掲げられています。以前に比べ、コミュニケーション手段について考える機会が少なくなっているのですが、手話に対する社会の見方や考え方、聴能の進歩など以前と環境が大きく変化している今、改めてコミュニケーション手段について考えることの大切さを認識した講座でした。

## 幼稚園で身につけておきたいこと（2月1日）

「幼稚園で身につけておきたいこと」というテーマの下、元本校教諭の曾我部恵子先生に昨年度に引き続いて本講座での講義をお願いしました。先生は、本校の幼稚園から高等部まですべての部で教鞭を取られ、本校退職後現在は伊予市の巡回相談員として聴覚障害のある子どもの支援にあたっておられます。今回は、「聴覚障害児とことば」についてお話をいただきました。「ことば」を支える上での乳幼児期の社会性や認知、記憶等の発達には聴覚障害の有無に関係なく大切であり、特に愛着関係の大切さを指摘しておられました。一方で、聴覚障害に配慮して行わなければならないこととして、「ことば」への意識の持たせ方や習慣化、特に話し掛け方について具体的に指摘していただきました。外部からの講師をお招きしての講座は年に一度だけということもあり、参加された保護者の方は、熱心にメモを取りながら話を拝聴していました。曾我部先生、ありがとうございました。

## 使用済み空気電池の捨て方

本校では、使用済みの補聴器用電池を回収していましたが、使用済み電池が放電し、火災につながる事例が報告されているのを受け、来年度から電池の回収を廃止することになりました。詳しくは、プリントでお知らせします。

## ◆補聴器電池の捨て方◆

セロテープを貼って、絶縁します。こうすることで、電池の放電を防ぐことができます。その後、購入した販売店へ持って行くか、補聴器販売店や電気店などのボタン電池回収箱に入れます。または、ゴミとして市町村のルールに従って、廃棄します。これらのいずれかの方法で廃棄をお願いいたします。



## 幼稚部ウインタースクールの報告



平成 23 年 12 月 26 日に本校の教育活動を知ってもらうために、保育所、幼稚園に在籍している幼児、未就園児を対象に幼稚部ウインタースクールを行いました。参加者は幼児 4 名、保護者 4 名、兄弟 2 名でした。合同保育では、自己紹介、歌、絵本の読み聞かせ、ホットケーキ作りを行いました。2 班に分かれて行ったホットケーキ作りでは、皆、卵を割ったり、混ぜたりする活動を積極的に行い、思い思いに飾り付けしたホットケーキを嬉しそうにはおぼっていました。親子ダンスも、みんなで輪になって行い、楽しく踊ることができました。終了後は、希望者に幼稚部説明会、教育相談を行いました。保護者からは「参加人数が少なかったのですが、丁寧に接してもらい良かった」との感想が聞かれました。幼稚部ウインタースクールは初めての試みでしたが、聾学校の教員が子どもたちと関わりながら、体験活動をすることで、保護者にも聾学校のことを知っていただけたのではないかと思います。今後も、聾学校を知ってもらう機会として、続けていきたいと思っています。



## 書籍紹介

### 「わたしたちの手話学習辞典」

(全日本ろうあ連盟 2730 円)

最新の標準手話研究の成果を盛り込んだ手話学習者のバイブル！大ロングセラー「わたしたちの手話」1～10、新しい手話 I～IV、2004～2009 などの中から基本単語を選定し、入門から手話通訳者養成までそれぞれのレベルに合わせて学ぶことができます。全国手話検定試験や手話通訳者全国統一試験の学習にも最適！



### 「わたしたちの手話 新しい手話 2011」

(全日本ろうあ連盟 800 円)

毎年、定番の新しい手話シリーズ。『2011』は〈ツイッター〉など話題の言葉はもちろん、〈文房具〉など日常使う手話も満載です。冬季デフリンピックの開催に合わせて、今回から採用される〈カーリング〉の手話もいち早く掲載しています。

～全日本ろうあ連盟 出版物のご案内ホームページより～

